

1st
ステージ

銀行口座を作って 自分でお金を管理しよう。

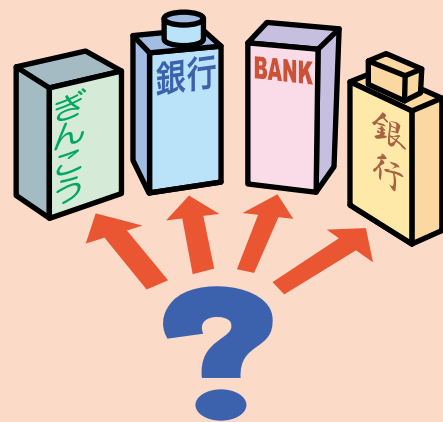
預金

人生の第1ステージは、高校生の「いま」。

皆さんが将来お金をきちんと管理しながら使っていくのに

欠かせない存在が「銀行」です。

お金を上手に管理するために、銀行を選んで
口座を作ることから始めましょう。



チャレンジ 銀行選び

1 調べてみよう

あなたの街にある銀行が、あなたにとってどのような魅力的な特徴を持っているか、店頭資料やホームページなどで調べてみましょう。

銀行名	支店名	あなたにとって魅力的な特徴
(例) □□銀行	△△支店	最寄り駅の普段利用している改札口付近に ATM コーナーがあって便利。
(例) ○○銀行	××支店	社会貢献活動に積極的で、7月と8月の第2と第4日曜日に海岸の清掃活動をしている。

チャレンジ 口座開設

1 考えてみよう

銀行に預金口座を作るとき、一般的に次のような点について着目します。あなたはどの項目を重視しますか。理由も述べてください。(複数選択可)

- 便利さ：通学経路や自宅の近所に支店やATMがある。
- 有利さ：預金の金利が高い。各種手数料が安い。
- イメージ：好きなキャラクターを通帳などに使っている。
- 経営状態：経営が安定していて破たんする可能性が少ない。
- 経営姿勢：地域の行事に参加するなど地域社会に貢献している。

2 調べてみよう

銀行に預金口座を作るときには本人確認書類が必要です。次のうち、銀行で本人確認書類として利用できるものはどれでしょう。(複数選択可)

- 運転免許証
- パスポート
- 健康保険証
- 住民票(の写し)
- 通学定期券
- メンバーズカード(レンタルビデオ店)

自分に合った銀行を見つけよう

1-1

スーパーによって品揃えが異なり、洋服のブランドごとに特徴があるように、銀行にもそれぞれ個性があります。

銀行もスーパーやアパレルメーカー同様、少しでも多くのお客さまと取引しようとさまざまな面で個性を示し競争しているため、銀行選びの際は、たとえば次のような点に着目するとよいでしょう。

- 選びたい商品があるか？
銀行の商品は「モノ」ではなく、お金を預けたり、増やしたりすることなどを目的とした**金融商品**です。魅力的な金融商品があるか、が一つの着目点です。
- 取引しやすいか？
家や駅の近くといった自分の行動範囲に店舗やATM（現金自動預払い機）があるほうが便利です。また自宅のパソコンや携帯電話でできる取引の種類なども確認しましょう。
- 経営は健全か？
大切なお金を預けた先がつぶれてしまったらたいへんです。ホームページなどで経営状態などを確かめてみましょう。（p5 コラム参照）

パスポートや健康保険証を用意しよう — 本人確認書類

1-2

銀行で預金口座を作るとき、**本人確認書類**と印鑑が必要です。本人確認書類とは、あなたの住所、氏名、生年月日などを確認するために求められる公的な書類で、パスポート（旅券）や健康保険証、運転免許証などがあてはまります。国際的なテロ活動の資金の流れを断ち切ることを目的として、法律で提示が求められています。

一方、印鑑ですが、口座開設のときに利用した印鑑は、大切なお金を引き出すときにも必要となります。したがって変形しやすいゴム印や同一のものが販売されているスタンプ式印鑑は利用できません。

なお、預金口座は未成年者でも作れますが、自分の口座を他人に売ったり譲ったりするのは犯罪です。絶対に行ってはいけません。

おサイフ代わりとして便利な普通預金から始めよう

1-3

銀行の預金の種類は、「定期性預金」と「流動性預金」の二つに大別できます。定期性預金とは、預け入れる期間が定まっている預金です。期間中は引き出すことが制限される代わりに比較的**金利**が高いため、計画的に貯蓄したり、余裕資金を預けたりする場合に利用されることが多いです。

流動性預金とは、お金の流動性が高い、つまりいつでも出し入れが自由な預金で、代表的なものは普通預金です。普通預金の

場合、あらかじめ手続きをしておくことで、給与を自動的に受け取ったり公共料金を自動的に支払ったりすることができます。このようにおサイフ代わりに便利に使える普通預金は、銀行預金の基本と言えます。

キャッシュカードを使えば、窓口へ行かなくてもコンビニエンスストアなどのATMで、必要なときに暗証番号を入力してお金を引き出すことができます（手数料がかかる場合があります）。キャッシュカードを盗まれて不正に預金を引き出されないようにするためにも、暗証番号は他人に推測されにくいものにして誰にも教えないようにしましょう。近年では、不正利用を防止するため、手のひらや指先の静脈の形といった個人のカラダの特徴で本人を認証（生体認証）するキャッシュカードとATMも作られています。

主な定期性預金と流動性預金

図1-1

定期性預金	定期預金、積立定期預金、 期日指定定期預金、大口定期預金 など
流動性預金	普通預金、貯蓄預金、 当座預金 など

銀行に預金するのは、「安全・便利・お得」だから

1-4

なぜ多くの人が大切なお金を銀行に預けているのでしょうか。家にお金を置いておくと、万が一火事になって燃えてしまったり、泥棒に入られて盗まれてしまったりする心配があります。だからといって持ち歩くのもキケンです。しかし、銀行に預けておけば安全に保管されるので、火災や盗難、紛失の心配がありません。また、もしもその銀行が破たんしても**預金保険制度**により、決済用預金は全額、定期預金などは**元本**1,000万円までとその**利息**が保護されます。

預金保険の対象商品・対象外商品

図1-2

預金などの分類	預金保険による保護範囲				
預金保険の対象預金など	<table border="1"> <tr> <td>決済用預金※ (当座預金など)</td> <td>全額保護</td> </tr> <tr> <td>一般預金など (利息のつく普通預金、定期預金など)</td> <td>合算して元本1,000万円までとその利息などを保護 (1,000万円を超える部分は破たん金融機関の財産の状況に応じて支払われます。一部カットされることがあります。)</td> </tr> </table>	決済用預金※ (当座預金など)	全額保護	一般預金など (利息のつく普通預金、定期預金など)	合算して元本1,000万円までとその利息などを保護 (1,000万円を超える部分は破たん金融機関の財産の状況に応じて支払われます。一部カットされることがあります。)
決済用預金※ (当座預金など)	全額保護				
一般預金など (利息のつく普通預金、定期預金など)	合算して元本1,000万円までとその利息などを保護 (1,000万円を超える部分は破たん金融機関の財産の状況に応じて支払われます。一部カットされることがあります。)				
預金保険の対象外預金など	保護対象外 (破たん金融機関の財産の状況に応じて支払われます。一部カットされることがあります。)				

※「無利息、要求払い、決済サービスを提供できる」の3要素を満たす預金

さらに、普通預金口座なら給与や年金を自動的に受け取ったり、携帯電話料金などを自動的に支払うことができるので便利です。

そのうえ、家にお金を置いておいても増えることはありませんが、預金すると利息が付いて増えますから、その分お得です。利息の計算方法には、**単利**と**複利**があります。複利は、期間の途中で、預けたお金（元本）にそれまでの利息が組み入れられる方式です。利息が利息を生み出すため、単利（期間中の元本についてのみ利息が付く方式）に比べて有利です。

安全性・流動性・収益性は同時に満たせない

1-5

預金などの金融商品を選ぶ際には、「**安全性・流動性・収益性**」の三つの指標が参考になります。

安全性とは元本の保証の程度、流動性とは換金（引出し）のしやすさ、収益性とは高い収益を期待できる程度のことです。

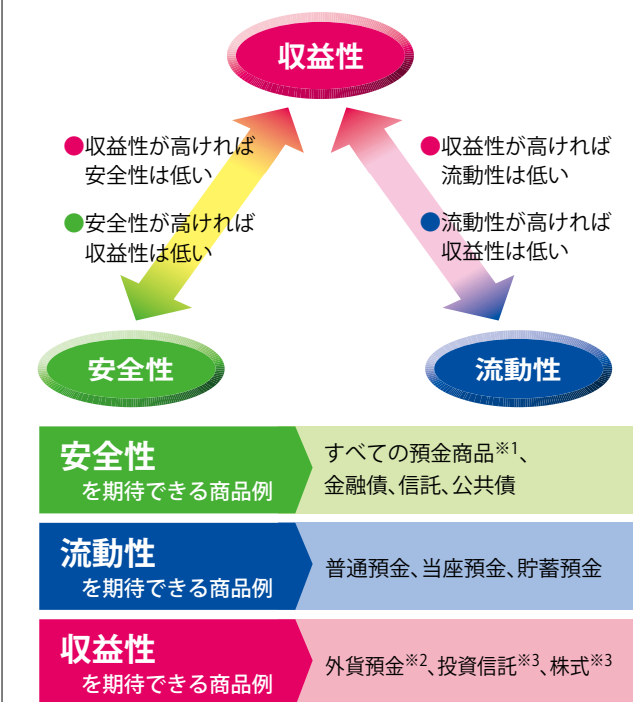
定期預金は普通預金に比べて、預け入れ期間が決まっている分、流動性が低いです。一般的に金利が高く、収益性が高くなります。

また、預金のほうが元本が保証されている分、株式よりも安全性が高いですが、一般的に収益性は低くなります。このように、安全性・流動性・収益性の三つの要素はすべて同時に満たされません。

将来使う目的が決まっているお金は安全に預け入れ、特に使う予定がない余裕のあるお金は高い収益をねらうなど、目的に合わせて金融商品を選ぶ必要があります。

金融商品の三つの指標の関係

図1-3



※1. 外貨預金、仕組預金を除く。
※2. 為替変動等による損失または利益の可能性がります。
※3. 株価変動等による損失または利益の可能性がります。

銀行の経営状態や経営姿勢を知らせる「ディスクロージャー」



大切なお金を預ける銀行のことですから、魅力的な金融商品があるか、近くに店舗やATMがあるかといったことはもちろん、破たんする可能性が低いか、どのような方針で経営されているかなども、銀行選びの重要な決め手になります。

これらの情報については、各銀行の支店などに必ず備置してある情報開示資料（**ディスクロージャー誌**など）で確認できます。また、ほぼ同じ内容をホームページでも公開していることが多いようです。

近年では、その銀行がどのような社会貢献やエコ活動などのCSR活動（Corporate Social Responsibility）をしているかなども掲載している場合があります。

ディスクロージャー誌を見るポイントとしては、たとえば経営状態を把握するために次の指標を複数の銀行で比較したり、過去数年間の推移を見たりすることがあります。

- **不良債権**：貸し出しているお金のうち回収できない可能性のあるものがどれくらいあるか、ということ。銀行は貸出金から得る利息と預金に支払う利息との差額などから利益を得ていますから、貸出金が回収できなければ、銀行の収益に影響を与えることになります。
- **自己資本比率**：自己資本とは、預金などと違い、銀行として返済する必要のない資金のこと。そして、返済が滞る可能性のある貸出金などの資産に対する自己資本の割合が自己資本比率。多額の貸出金が回収できない場合には、自己資本を使って処理することもあります。そのため自己資本の充実度は、銀行の健全性を表す重要な指標となっています。国際的な活動を行う銀行は8%以上、国内のみで活動を行う銀行は4%以上を確保していることが必要です。
- **業務純益**：貸出業務や為替業務などの銀行本来の業務によって稼ぎ出した利益のこと。銀行の収益力の大きさを計る指標です。

ポイントチェック

- 銀行はどこも同じではない。自分に合った銀行を見つけよう。
- 口座開設時には、本人確認書類として運転免許証などの公的機関から発行された書類が必要。
- 大切な預金を守るため、キャッシュカードの暗証番号は他人に教えない。印鑑は大切に保管する。
- 金融商品を選ぶ際は、安全性・流動性・収益性を確認。
- 銀行の経営状態や経営姿勢はディスクロージャー誌で確認。